



水の都・松江を象徴する夏祭り。7/30(土)、31(日)の両日に行われる協賛イベント松江レガッタが祭りのオープニングを華やかに飾ります。また、8/6(土)、7(日)の湖上花火大会において宍道湖上に打ち上げられる花

# 2005 松江水郷祭

8/6(土)  
・7(日)

打ち上げ数は山陰最大!  
水の都ならではの湖上花火

火の数は、なんと約9000発。伝説に彩られた嫁が島をバックに、宍道湖の湖面を明るく染める光のショーは、日本の夕陽百選にも選ばれる夕景とはまた違った趣。見るものに一時の感動を与えてくれます。カラコロサマーフェスタ、ちびっこゴムボート大会などイベントも盛りだくさん。毎年テーマを立て、青年会議所が主催するというステージにも要注目です。

## 見どころ1



お楽しみは花火だけじゃない。松江青年会議所主催で行われる「松江だんだんまつり」は、市民参加型のステージイベントをはじめ、フリーマーケットやスポーツイベントなど、宍道湖一望の白濁公園を会場に内容満載で実施されます。

- 日時/8/6(土)・7(日) ※7/30(土)・31(日)は協賛イベント
- 会場/白濁公園、松江市役所前など
- 問い合わせ/0852-32-0504(松江市商工会議所 水郷祭実行委員会)
- アクセス/JR山陰本線松江駅下車、徒歩約10分

## 見どころ2



嫁が島をバックに、宍道湖の湖面を明るく染める光のショーは、8/6、7の各20:00～。その数回日合わせて山陰最大の約9000発。尺玉連発など湖上に咲く花火の大輪に、思わず「ウワァ」と大歓声必至。

# やすぎ月の輪まつり

安来の夏のハイライト  
新旧の伝統・文化がミックス

8/14(日)  
~17(水)



神代の昔「出雲国風土記」の一説に残る、かの有名な「猪麻呂伝承」。この物語で黄泉の国へと旅だった語臣猪麻呂(かたりのおみのいまる)の娘の霊を慰めるため始まった慰霊祭が、このまつりの起源とされています。その歴史は500年以上。今となっては山陰地方を代表する夏まつりの一つとして多くの観光客を集めるまでになりました。月の輪神事といった伝統行事に加え、新安来節お披露目の場であるダンスコンテストや夜を染め上げる花火大会など現代風のイベントも盛りだくさん。ホットな4日間で、安来の夏を締めくくります。

## 見どころ1



8月14日(日)16:30～、安来港特設ステージで行われる「新安来節1000人踊り」。ダンシングDOJO、サンバ安来節、正調安来節から曲を選択し、衣装・メイク・人数は自由。思うがままにアレンジした安来節の進化系を観客の前で披露します。

## 見どころ2

安来港を利用して行われる花火大会は、ユニークな水中花火をはじめ、様々な企画で真夏の夜を彩る一大イベント。夜の中海をステージに、約3000発が華やかに打ち上げられます。8/14(日)20:30～

## 見どころ3



山車を先頭に「エーンヤエーンヤ」の掛け声を出し、笛や太鼓で町内を練り歩く「月の輪神事」。クライマックスは、4町内の山車が1か所に集まって競演する神事四重連。迫力の光景にただただ息を飲むばかり。

- 日時/8/14(日)~17(水)
- 会場/安来港など安来市各会場
- 問い合わせ/0854-23-7022 (やすぎ月の輪まつり実行委員会事務局)
- アクセス/JR山陰本線安来駅から徒歩約10分

# 千灯籠万灯籠

(せんとうまんとうろう)  
川面を明るく染めるといまつの灯り。

7/17(日)  
・22(金)  
・23(土)

田舎に伝わる幻想的な夏風景

米子市東南、尚徳地区を流れる清流・法勝寺川、そしてその支流となる小松谷川。その下流域にある村々では、麦の穂や竹を使った高さ1m程のたいまつを並べ、無病息災、豊作を願う「千灯籠万灯籠」が行われます。これは江戸時代末期より伝承される虫送り行事で、現在は祭りの舞台となる3神社の例祭日異なるため3回に分けて開催。灯されるたいまつは1000本を数え、周囲が田んぼの暗闇のなか、川に平行する県道沿い約1kmに火の帯が浮かび上が



ります。思い思い静かに楽しむ雅な風景に、古里の夏を実感。

- 日時/7/17(日)、22(金)、23(土)
- 会場/兼久堤防(法勝寺川)ほか
- 問い合わせ/0859-26-3317 (尚徳公民館)
- アクセス/山陰道米子南ランプより車で約5分

# 江尾十七夜

十七夜に蘇る、500年の思い  
こだいち踊りに見る繁栄の歴史

8/17(水)



伯耆の国、江美城城主が城門を開放。町民、農民を自由に入れ、盆の供養と豊年を祈い無礼講で朝まで踊り明かしたという「江尾十七夜」。祭りのメイン「こだいち踊り」は、城下の住民たちが、その後落城、討ち果たした亡き城主を思い、この日を忘れることなく受け継いできたという伝説の踊り。ゆったり哀愁を帯びたリズムが当時を偲び、来場者の心を癒します。こだいち踊りが始めると、対岸の山に「十七夜」の火文字が浮かび、祭りのフィナーレを花火が演出。夏の終わりを告げるノスタルジックな雰囲気、ふと郷愁を誘います。

## 見どころ



無形民族文化財にも登録されるこだいち踊り。亡き城主を偲ぶ住民の心が、500年経った今でもしっかり受け継がれるというロマンチックな逸話が何とも感動的。20:20頃～、上之段広場で踊り始めます。

- 日時/8/17(水) ●会場/江尾街内、上之段広場、江尾駅前ステージほか
- 問い合わせ/0859-75-6007 (江府町観光協会) ●アクセス/JR伯耆線江尾駅から徒歩すぐ ●特設区からシャトルバス運行! ●は久連橋米子寄り大山側に入る。

# 第22回加茂川まつり

伝統の“地藏さんまつり”  
に湧く商都・米子の繁栄を支えた加茂川

8/21(日)  
~27(土)



子供の健やかな成長を祈る地藏盆がはじまりという加茂川まつり。今回からは、子供の盆だけでなく、高齢化の進む地域の現状を踏まえ、お年寄りの健康長寿などにも思いを広げる内容で開催。この主旨に伴い、期間も7日間のロングランに。23日には18体のお地藏さんを巡るスタンプテリングなどユニークな地藏盆を演出するほか、初の試みとなる加茂川源流探検隊や、キャンドルナイトin加茂川など「加茂川」にスポットを当てたイベントも多数企画。もう一つのテーマである清流復活をPRする。

- 日時/8/21(日)~27(土)
- 会場/加茂川流域、本通り商店街
- 問い合わせ/0859-34-8813 (新日本海新聞社 西部本社事業課)
- アクセス/JR山陰本線米子駅から徒歩約15分